



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G2117号)

令和3年8月4日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

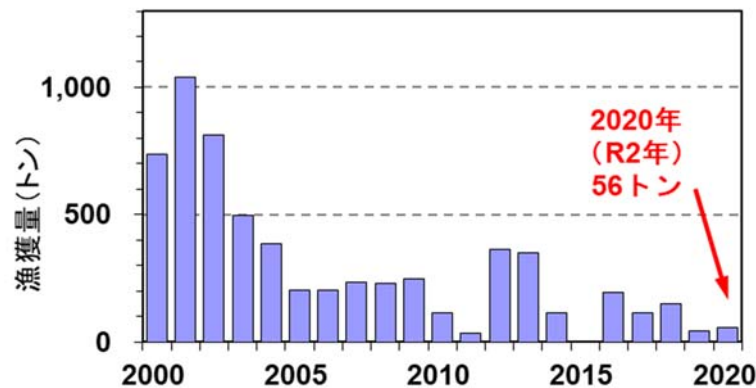
令和3年(2021)ソデイカ漁期に向けた漁海況情報

但馬地域の沿岸漁業にとって重要な対象種となっている「ソデイカ(あかいか)」について、今漁期に向けて海況などの情報をお知らせします。今後の漁業操業の参考になれば幸いです。

1. 来遊資源の状態

来遊資源量のひとつの目安となる漁獲量の変動は日本海の各府県間で非常に似通っており、本県の漁獲量が多いときは他府県の漁獲量も多く、本県が少ないときは日本海の他府県でも少なくなる傾向があります。日本海のソデイカ資源は大きくひとつとして捉えることができるようです。

兵庫県におけるソデイカの漁獲量は、2000年前後には年間1,000トンを上回ることもありましたが、直近10カ年(2011~2020年)の年間漁獲量は2.3トン~363トンでした。来遊資源が不安定であり、年変動が大きくなっています。

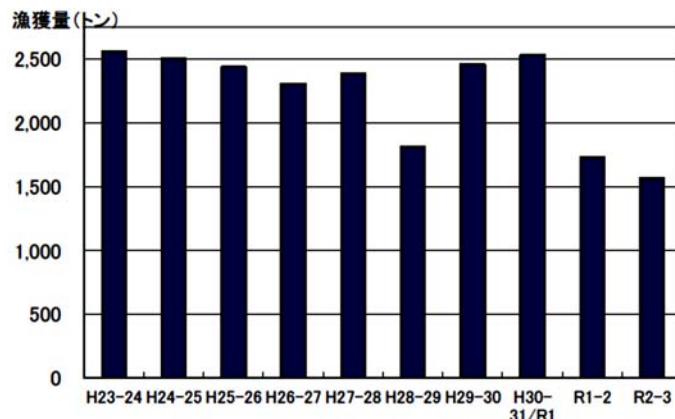


2. 沖縄県の漁況

日本海で漁獲されるソデイカは、1~9月に発生し(盛期は2~3月)、対馬暖流の上流部から成長しながら来遊してくる資源と考えられています。

沖縄県の漁獲量と但馬の漁獲量とは必ずしも連動しませんが、沖縄県の2020-21年漁期(令和2年12月~令和3年5月)の漁獲量は、過去10漁期で最も少ない1,562トンでした。

(沖縄県漁獲量: 出典 沖縄県水産海洋技術センター、<https://www.pref.okinawa.jp/fish/kenkyu/kankobutu/sodeika.html>)



3. 6月の対馬海峡の環境

ソデイカは南方から対馬海峡を通過して日本海へ来遊します。来遊時期と考えられる6月の対馬海峡部の環境条件は次のとおりで、水温、流量などから対馬暖流の勢力が強いことが示唆されます。

- ① 水深10mと20mの平均水温（6月0日補正值）は19.7℃で、平成元年以降で8番目に高い値。
- ② 厳原験潮所（長崎県対馬）の6月の平均潮位は1.93mで、平成元年以降（欠測のR2年除く）で最も高い値。
- ③ 流量の指標となる博多験潮所（福岡）と厳原の潮位差は6.2cmで、平成元年以降（欠測のR2年除く）で5番目に高い値。

また、気象庁の「対馬暖流の勢力の時系列」でも、5月は平均並みですが6月以降は勢力が強まっています。

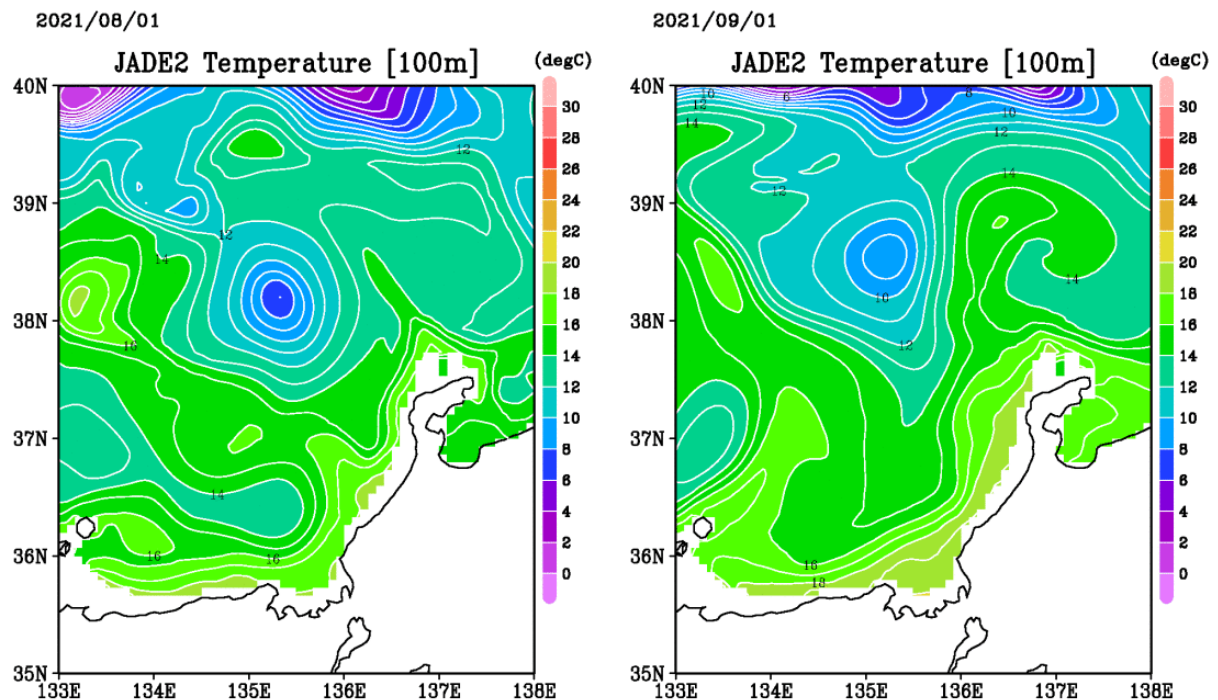
（対馬暖流の勢力：出典 気象庁、http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaikyo/tsushima/tsushima_area.html）

4. 日本海海況(水温や冷水域の配置)予報(2021年7月中旬～9月)

これまでの調査結果から但馬沖の好漁場は水深50mの水温が19℃以上、水深100mの水温が14～15℃以上の海域に形成されることが分かっています。6月の山陰・若狭沖の冷水域はかなり小さく、接岸状況は平年並みでした。7月下旬から9月にかけての予報は次のとおりです。

- ① 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は「やや小さく」、接岸状況は「平年並み」で経過。
- ② 対馬暖流域の表面水温は「平年並み」、50m深の水温は日本海西部及び北部でともに「かなり高め」で経過。（2021年度第2回日本海海況予報：出典 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所、<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2021/20210709/index.html>）

（参考）拡張版日本海海況予測システム（JADE2）で予測された西部日本海の100m深の水温分布図（8/4出力：左が8/1の予測図、右が9/1の予測図）



5. エルニーニョ現象

1993年や2015年といった冷夏の年には、対馬海峡から日本海に来遊するソデイカが少ない事例が見受けられます。エルニーニョ現象発生時は西日本では夏（6～8月）、秋（9～11月）の平均気温はともに低い傾向がみられます。気象庁によると2021年6月実況はエルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態であるとみられ、2021年7月～2022年1月の見通しも平常の状態が続く可能性が高い見込みです。（エルニーニョ監視速報（No.346）：出典 気象庁大気海洋部、https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html）

6. その他

例年、6～7月頃より但馬地域の定置網などで小型のソデイカの混獲が始まり、この時期に混獲が多い年はその年のソデイカ漁が好漁となる傾向が見られます。今期は5月31日に余部定置網で1尾(20cm)、6月15日にJF浜坂諸寄支所から水深160m地点で1尾(23cm)、水深200m地点で1尾(17cm)の情報が寄せられており、すでに日本海への来遊が始まっていると考えられます。混獲に関連する情報がありましたら、但馬水産技術センターまでお知らせください。

漁期開始後の漁場形成は、漁場周辺の水温や冷水域の動向などにも大きく影響を受けることが明らかになっています。当センターのホームページでは、九州大学応用力学研究所が中心となって開発した流況予測モデル(DREAMS)の計算結果を簡便に閲覧できる海況予測【DREAMS コマンドー(兵庫版)】を公開していますので、併せてご参照ください。

(http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/suisan/ryuukyoku/css/DR_C_commander.html)

※本資料の作成には、「佐賀県玄海水産振興センター」、「沖縄県水産海洋技術センター」、「国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所(旧日本海区水産研究所)」、「第七管区海上保安本部海洋情報部」、「気象庁」からご提供いただいた資料や公開情報の内容を含んでいます。海況予測には、「国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所(旧日本海区水産研究所)」の拡張版日本海海況予測システム(JADE2)を利用しました。記してお礼申し上げます。

※昨年まで長期漁況予報として情報提供していましたが、特に近年は漁獲量の変動が大きく予測モデルの精度が著しく低下しており、現段階では予報を出せる精度がないため休止します。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター(担当：鈴木)

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

E-mail：nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

HP：http://www.hyogo-suigi.jp/index.htm